

# 歴史の流れ

民族の力と型

加藤 寛

*Hiroshi Katou*

文芸社



# 歴史の流れ

## 民族の力と型

加藤 寛

*Hiroshi Katou*

文芸社



## 前書

歴史を左右するのは、政治や経済（産業）や人間であろう。これらが相互に複雑に作用しながら、歴史は展開する。だがどれが一番大きな要因だろうか。それは多分人間ではなからうか、と考えるのが本書の結論である。正確には、政治や経済や人間をさらに左右する根本的な要因は、自然であると考える。

歴史を左右するのは、経済（産業要因）であるとか、軍事など政治（政治要因）であるとか言はれてきた。しかし日本は第2次大戦に敗戦し政治経済的に最悪の状態から40年で世界のトップクラスに成長した。これは人間的なもの（人間要因）が原因としか考えられない。ユダヤ人は世界を流浪し固定した政治経済体制に帰属していなくとも成功している。これも人間的なもの（人間要因）としか考えられない。結局、歴史を動かしているものは、人間の意欲（状況対応志向）と能力（状況対応力）が一番ではなからうか。人間が、真面目に働く意欲や、政治を真剣に考える意欲、熱心に出産育児・教育学習する意欲（勤労志向・政治志向・人間養成志向⇨状況対応志向）をもち、労働能力や政治能力（状況対応力）を磨かないと、その国や民族は発展しない。生物は環境へ適応できる種が生き残る。人間も同様ではないだろうか。

人間の意欲（状況対応志向）や能力（状況対応力）を、阻害する宗教や政治体制があると、その民族や国家は衰退する。また民族や国家が発展し過ぎて裕福になると、人間が贅沢になって享樂的（娯樂志向）になる。人間の意欲（状況対応志向）が弱まり、能力（状況対応力）を磨くこともなくなり衰退していく。いわゆる先進国病が発生する。ことに宗教はその狂信性と硬直性から、人間の柔軟性を弱めて人間の能力（状況対応力）を低下させる。民族や国家の衰退をもたらすことが多い。宗教的な面からみると、日本人

は宗教心が希薄である。そのため宗教による能力（状況対応力）の阻害が少なく民族の発展をもたらしている。宗教の中でも例外的に人間の意欲（状況対応志向）や能力（状況対応力）を阻害しないのが、ユダヤ教やキリスト教であろう。ユダヤ教は、ユダヤ人は優秀だから努力（状況対応）をすれば必ず成功しますよとする。意欲（状況対応志向）を鼓舞し創意工夫して能力（状況対応力）を磨くことを奨励するからであろう。キリスト教は、本来精神的な純粹性を求めるだけで俗世間の人間の行動に余り干渉しないからであろう。仏教も、俗世間から逃避し精神世界にこもるのでキリスト教に似ている。こう考えてみると、ユダヤ人や日本人やキリスト教の民族や国が發展し、イスラム教やヒンドゥー教の民族や家が停滞していることが理解できるのではないだろうか。

政治体制の面から見ると、古代国家や共産主義は、人間を管理束縛する（独裁国家）。そのため人間が意欲（状況対応志向）や能力（状況対応力）を磨くことができない。特に人間がやった（状況対応）だけのことに対する見返り（成果）が保障されない。そのため人間の意欲（状況対応志向）がなくなくなる。それらの政治体制下では民族や国家の發展は余り望めない。

つぎに人間の意欲（状況対応志向）と能力（状況対応力）など人間的なもの（人間要因）が歴史を左右するとしても、なぜ日本人のように宗教心の希薄な民族がいたり、宗教心に厚い民族がいたりするのであるか。日本人は、島国（閉鎖地形）に暮らすため戦争が少なく平和である。人間同士の争いが少なく（嫌争型）、人間同士が協力して集団を構成（集団依存型）し、物事に対処（状況対応）している（集団依存嫌争型Ⅱ集団で物事を対処し争いを嫌う）。その他の大半の民族は、大陸（開放地形）に暮らし、他民族との戦争が多い。人間同士の争いが激しく（好争型）、人間同士が協力して物事に対処（状況対応）できない。宗教にすがって（宗教依存型）、物事に対処（状況対応）するしかなかった（宗教依存好争

型Ⅱ神の指示で物事を対処し争いを好む)。このように考えるのが本書の結論である。ここで重要なのは、日本人は宗教に拘束されないため割合柔軟で白紙から物事を考えることができる。これに対して他の民族は宗教からでてくる原理や正義に拘束され硬直的になりやすいことである。また島国とか大陸とかいう地形(自然要因)が、人間の行動パターン(行動様式)を大きく左右する。そして間接的に歴史に重大な影響を与えている。

日本人は宗教心が薄いため、宗教にいろんな種類があることも不思議である。本書では次のようにその特色を考えてみた。ユダヤ教は、ユダヤ人が出エジプトやバビロンの捕囚の民族的苦難を克服する中で発生した。そこで我々ユダヤ人は優秀であるとし、努力(状況対応)すれば必ず繁栄すると考えた。人間の能力(状況対応力)を磨くことを奨励する。キリスト教は、ローマ帝国が拡大していくなか被征服民族や被支配層から発生した。人間の能力(状況対応力)の無力を感じ戦争の現実社会から逃避した。精神世界での精神的純粋性だけを求めた。本来消極的なものである。しかし現実社会から逃避し現実社会を拘束しない点が、人間の意欲(状況対応志向)や能力(状況対応力)を阻害せずすんだ。イスラム教は、マホメットが貧富の差が激しい社会を見て、平等社会を建設しようとして発生した。その平等感人間の素朴な正義感に訴え多くの信者を獲得した。しかし極端な平等を押し進めてしまった。人間は皆平等であるから、富めるものは貧しきものに寄付しなさいと財産的平等を勧めたり、弱者保護を勧めた。そのため個々の人間からすれば自分個人の努力(状況対応)に見合っただけの見返り(成果)が保障されないこととなった。人間の意欲(状況対応志向)がなくなるといふ弊害を起こした。そのためイスラム教の民族は停滞することになってしまった。ヒンドゥー教は、アーリア民族がインドに進入して原住民族を征服し、カースト制度という階級が固定化されたなかで発生した。カースト制度の正当化を目指している。自分がある

階級に属しているのは前世の行いによる。努力（状況対応）してもこれを変更し生活を向上させることができないとする。人間の意欲（状況対応志向）は全くなくなってしまう、インドの停滞をもたらした。

特異なのは、中国である。多民族国家で、民族が入り混じったため、どの民族の流儀（行動様式）も通用しなくなった。人間の行動パターンがなくなってしまった（無行動様式）。混乱（無規範）で能力（状況対応力）が発揮できない。中南米、アメリカ、ロシアも多民族国家となり無行動様式になりつつある。

以上が、この本書の根底を貫く基本的な考えである。著者の力不足から本文は難解な文章となったが、ご容赦願いたい。ご理解いただけたかと思いますがこの本書の特色は人間要因（第3章）にあります。興味のあるかたは、最初にここから読んでいただいても結構です。

平成11年1月

加藤 寛

目次

前書 3

1章 総論 11

1節 歴史の四要因 12

2節 歴史の発生・進歩・衰退 16

3節 事例 22

2章 自然要因 25

1節 気候 26

2節 地形 28

3節 地質 31

4節 事例 32

3章 人間要因 35

1節 状況対応力の取得 37

2節 状況対応力の向上・低下 47

3節 状況対応力の分類 54







# 1章

## 総論

# 1節 歴史の四要因

本書の歴史の基本構成（枠組み）の把握を簡明にのべる。理解を容易にするため多少独断的な表現になることを許されたい。

## 1 四要因：自然要因、人間要因、産業要因、政治要因

歴史を制約する要因としては四つのものがある。気候・地形・地質などの自然要因、人間の状況対応力・行動様式（民族の能力・型）などの人間要因、国家の基礎体力である産業の産業要因、国家の体制や政治などの政治要因である。

## 2 四要因の序列：自然要因∨人間要因∨産業要因・政治要因

これらの四要因はたがいに制約し合う。それらのバランスの上に、歴史は方向づけられる。四つの要因のうち、自然要因が基本要因となる。他の人間要因・産業要因・政治要因を決定的に制約する。他の要因から制約されることは少ない。自然要因について重要な要因は人間要因である。産業要因や政治要因を左右している。自然要因を除く他の三要因は、相互に密接に関連し制約し合っている。

本書のこの基本的な考え方は、今までの歴史家や社会学者の発想とは反する。異論があるであろう。まず歴史を基礎付ける要因として、どれに重点を置くかは別にして、自然要因、人間要因、産業要因、政治要因の四つがあることに異論のある方はないと思う。ただその四要因のうちどれに重点を置くか考えが別

れる。マルクスのように産業要因を重視する考えがある。産業を下部構造として政治制度が決定され、政治が国民を支配する。この公式的論理は長く支配的であった。その他の説でも産業要因や政治要因を重視する考えが強い。しかしながらエジプト文明やメソポタミア文明が衰退したのは、乾燥化、砂漠化という苛酷な自然要因が原因となつてゐることは否定できない。世界を流浪しているユダヤ人が繁栄していることは、ユダヤ教という人間要因によるとしか説明できない。第2次大戦で敗戦し産業資源もない日本が戦後飛躍的に発展していることも、人間要因以外では説明できない。さらにキリスト教やユダヤ教の民族や国家が発展し、ヒンドゥー教やイスラム教の民族や国家が停滞しているのも、宗教という人間要因が原因としか考えられない。加えて宗教はその発生経過をみればいづれも戦争を契機としている。その戦争は民族同士が接触摩擦を起こす開放地形（大陸）で発生している。日本のような閉鎖地形（島国）では本格的な戦争は起きない。平和で本格的な宗教は発生しない。結局、本書はまず人間要因が産業要因や政治要因より上位に立つと考える。さらに自然要因がつぎのとおり、人間要因を根本的に制約し人間要因よりさらに上位に立つと考える。まず気候を通じて人間の生存や行動量を支配する。つぎに地形による宗教の発生で人間の行動様式の差をもたらす。動植物界でも環境（自然）に適応した種（生物）が生き残る。これと同じではなかるうか。

### 3 四要因の主要要素

#### (1) 自然要因

気候・地形・地質がある。

#### (2) 人間要因

人間の状況対応力（物事を対処する能力）、行動様式（人間の行動パターン）がある（民族の能力・型）。行動様式は、日本人の集団依存競争型（集団で物事を対処し争いを嫌う）と、欧米人などの宗教依存好争型（神の指示で物事を対処し争いを好む）がある。

(3) 産業要因

産業は農耕牧畜、工業、情報産業と高度化していく。また各産業は、人間と物・情報を集約化し、生産を高める。農耕牧畜は単純労働土地集約（肉体労働者と農地牧場地を集約）、工業は技術労働資源集約（熟練労働者と資源を集約）、情報産業は頭脳労働情報集約（頭脳労働者と情報を集約）となる。

(4) 政治要因

国家は独裁国家から自由民主国家へと進展していく。また内政・外交が充実し、強富国化していく。

#### 4 基本関係

歴史を直接的に制約するのは、人間の状況対応力である。この状況対応力を制約するのは第1が気候である。第2が行動様式である。第3が政治である。このうち行動様式は地形が決める。

気候・地形（自然要因）が、状況対応力・行動様式（人間要因）を通じて、間接的に歴史を制約している。

(1) 自然要因の他要因の制約

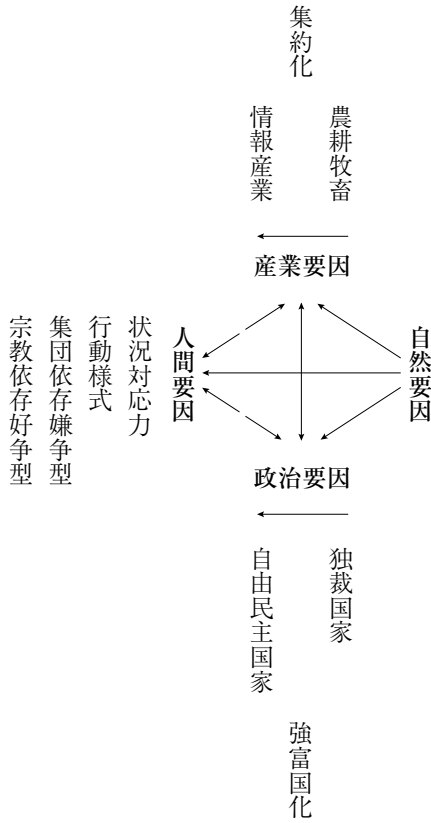
① 自然要因↓人間要因

気候は人間の状況対応力を向上低下させる。地形は人間の行動様式に差をもたらす。閉鎖地形（島国）は集団依存競争型、開放地形（大陸）は宗教依存好争型とする。

- ② 自然要因↓産業要因  
気候、地質、資源は産業の発生、高度集約化を左右する。
- ③ 自然要因↓政治要因  
地形は、国家を戦争にしたり平和にしたりする。閉鎖地形（島国）は平和、開放地形（大陸）は戦争となる。
- (2) 人間要因の他要因の制約
- ① 人間要因↓産業要因  
状況対応力の向上は、産業を高度集約化させる。逆に状況対応力の低下は、産業の高度集約化を阻害する。
- ② 人間要因↓政治要因  
状況対応力の向上は、政治面で自由民主化・強富国化させる。逆に状況対応力の低下は、自由民主化・強富国化を阻害する。
- (3) 産業要因の他要因の制約
- ① 産業要因↓人間要因  
産業の高度集約化は、人間が状況対志向（状況対応意欲）となるよう要求する。
- ② 産業要因↓政治要因  
産業の高度集約化は、国家に対し高度集約化の支障となる人間・物・情報への規制を、撤廃し自由化するよう要求する。中央集権を要求する。
- (4) 政治要因の他要因の制約

政治はその権力の強大さから、人間や産業を規制する方向に走りやすい。

気候・地形・地質



## 2節 歴史の発生・進歩・衰退

人間が状況対応力を取得（物事を対処する能力を獲得）することで歴史は発生する。また人間の状況対応力が向上低下することで歴史は進歩衰退する。

## 1 歴史の発生

歴史は温暖な気候のもと人間が状況対応力を取得し発生した。歴史の発生は、直接的には人間の状況対応力取得という人間要因による。さらにこの状況対応力は温暖な気候のもとで取得された。結局、歴史の発生は、間接的根源的には気候という自然要因による。

状況対応力の取得で、人間を養成し民族を形成する（人間要因）。農耕牧畜を開始し産業の発生をもたらし（産業要因）。国家を形成し政治の発生をもたらし（政治要因）。その結果、歴史が発生開始した。わかりやすくいえば人間が物事をうまく対処する能力を身につけたため、子育てもうまくなり、食料を拾い集めるのではなくこれを作り、活動が広まって多くの人間が集まって国を作った。

実際に氷河期以降最初に温暖気候となったエジプト、チグリス・ユーフラテス流域、インド、中国で、最初に歴史が発生した（四大文明）。その後、寒冷気候から温暖気候になったヨーロッパなどで、歴史が順次発生展開した。

# 途中省略

## 著者略歴

昭和 23 年 10 月 22 日生まれ。  
広島市出身。  
昭和 47 年 3 月、東京大学法学部卒業。  
昭和 49 年 4 月、弁護士。

## 歴史の流れ 民族の力と型

---

2001年 2月15日 電子出版発行

著者 かとうひろし  
加藤 寛  
発行者 瓜谷 綱延  
発行所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1  
電話 03-5369-3060 (編集)  
03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Hiroshi Katou 2001. Corded in Japan.

ISBN4-88737-913-7 C0095

(文芸社発行の通常書籍(紙の本)については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」  
サイト <http://www.bungeisha.co.jp> を御参照ください。)

新 01.02.01 Y.H. 改 02.05.15 Y.H.